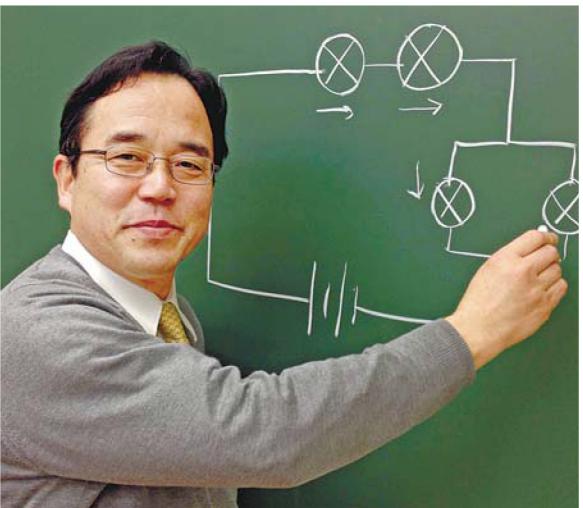


わたしと朝小学校「わくわく探検隊」を監修、高濱正伸さん



「子ども自線の指導が学力をのばすと評判の塾講師、高濱正伸さんが監修するコチラーが、4月から始まりました。火曜2面「身のまわりには遊びがいっぱいわくわく探検隊」です。タッチパネルの学校で使うことや自分の経験を使って、思ひ出します。高濱さんは「身のまわりのでき」といふことに、おどろいたり感動したりすることが本当の勉強の楽しさ」と話します。

(渡辺真理子)

たかはま・まさのぶ 1959年3月14日、熊本県生まれ。東京大学大学院修了。93年、小学生対象の学習塾「花まる勉強会」を開始。97年、「花まる学習会」に名前を変更。数理的思考力、国語力の養成、野外体験を三本柱に、首都圏を中心に約150教室を展開する。おもな著書は『勉強が大好きになる花まる学習会の育て方』(かんき出版)。テレビ出演多数。

子どもたちがそれぞれ何種類か昆虫をつかまえて、一匹一匹を1本の線でスケッチしたり、公園の風景の中にある三角形は、シーブンなどの野外体験、青空授業、理科実験にも力を入れています。子どもたちがそれぞれ目標とするのは「将来、めしが見える人」を育てるここと。最近の若者ははぐ「自分に合わない」などといつて会社を辞めてしまう傾向にある、という高濱さん。「困難はあります当たり前。これを乗り越える力をつけておく必要があります」

「花まる勉強会」に名前を変更。数理的思考力、国語力の養成、野外体験などに力を入れるのも「わかったときの感動を知っている子は、将来、未知の問題にあつても最後までつづめることができる」という考え方から。長年、子供たちを指導した経験から得た信念です。

「ぼくらが子どものこころは、外遊びしながら『わかる感動』を経験したけれど、今の子たちはそれが減っています。まわりが意識して、子どもたちの大きく見えることを確かめる実験もします。牛の水晶体を前に「自分たちの目も、こんなふうに凸レンズ形になっているんだよって話すと、子どもたちの目がキラキラしてくるんです」。

目標とするのは「将来、めしが見える人」を育てるここと。最近の若者ははぐ「自分に合わない」などといつて会社を辞めてしまう傾向にある、という高濱さん。「困難はあります当たり前。これを乗り越える力をつけておく必要があります」

教科書にのっていないことも出てきますが、「習ったことや自分の経験をもとに、あきらめずに考えてみて。3人の会話をもヒントがかくされていきます」とアドバイス。この連載をきっかけに「自分で疑問点を見つけて、行動を起こす子が増えるといいですね」。